

国語科学習指導案

令和6年9月25日(水) 5校時
3年2組 38人(3年2組教室)
授業者 教諭 吉田 道

1 単元(教材)名

いにしへの心を受け継ぐ(「夏草―「おくのほそ道」から」 光村図書 国語3)

2 単元の目標

- (1) 作品を読むことを通して、古人の考え方を知り、一節を引用して自分の文章に使うことができる。
[知識及び技能(3)イ]
- (2) 「おくのほそ道」や「おくのほそ道」に関する資料を読んで考えを広げたり深めたりし、人間、社会、自然などについて自分の意見をもつことができる。
[思考力、判断力、表現力C(1)エ]
- (3) 表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。
[思考力、判断力、表現力B(2)ウ]
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

3 本単元における言語活動

各自、松尾芭蕉が訪れた場所の中から、心惹かれた場所を一か所選び、紀行文に登場する俳句や句意、季語、訪ねた名所旧跡、歴史的な出来事、そのときの芭蕉が考えたことなどについて、資料を使って詳しく調べ、「芭蕉生誕380年、『おくのほそ道』紀行335年特別企画 芭蕉の足跡をたどるツアー」のフライヤーを作る。

(関連：言語活動例 読むこと(2)イ)

4 単元における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 「おくのほそ道」を読むことを通して、古人の考え方を知り、一節を引用して自分の文章に使用している。 (3)イ)	① 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりし、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっている。 (C(1)エ) ② 「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。 (B(2)ウ)	① 積極的に作品や資料を読み、学習課題に沿って考えたことを表現しようとしている。

5 単元について

(1) 教材観

松尾芭蕉の「おくのほそ道」と言えば多くの生徒が知っている作品であるが、全体を通してどのようなことが書かれているのか、理解している生徒は少ない。教科書に載っている冒頭部分や平泉は、ともに名文と称えられている文章ではあるが、「おくのほそ道」の魅力はそれだけではない。悪天候で行きたかった場所を諦めたり、体調を崩して死を覚悟したり、楽しみにして行った土地が期待外れであったりと、残念な気持ちになっていることも多い。その一方で、土地の人に助けられて感謝したり、千年も前の人の心を石碑に見つけて感動したり、思いがけない体験をして喜んだり、気分の高まりもあちらこちらに見られる。「おくのほそ道」からは、芭蕉のさまざまな感情の動きが伝わってくる。

旅の大きな目的は、みちのくの歌枕や、歴史の舞台となった地を訪れることだったとされている。芭蕉には、みちのくへの強い憧れがあった。有名な歌枕が多く、尊敬する歌人、西行法師や能因法師が旅した場所だったからだ。歴史ある社寺や史跡も多くある。また、各地に暮らす弟子や、文化や芸術に親しむ人々と交流することも目的の一つであった。

芭蕉の足取りをたどることで、芭蕉だけではなく、さらに昔の人々のものの見方や考え方に触れることにつながったり歴史的背景を知ったりすることができ、生徒たちの古典に対する考えを広げたり深めたりするには最適な教材だと言える。

また、「おくのほそ道」の旅は、現代の観光旅行とは違う。芭蕉のこの旅は、住み家を人に譲り渡してまで行ったもので、芭蕉の「旅」とは、人生思索の旅であるという思いで向き合っていくように導きたい。

(2) 生徒の実態

本学年の生徒は、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果によると、「国語の勉強は大切だ」と思ったり「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と思ったりする生徒の割合は、全国や鹿児島県の平均より大きい。しかし、「国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いている」生徒の割合は、全国や鹿児島県の平均に比べて小さいことが分かった。

本学級の生徒は、真面目に前向きに学習に取り組む集団であるが、文章や言葉を手がかりとして、深いところまで読みとることが十分にできる生徒は多いとは言えない。また、じっくり考えることをあまりせずに、安易に答えや結果を求めようとする傾向も見られる。

古典の学習については、生徒たちは、1年生のときから音読を通して古典特有の言葉の響きやリズムを楽しみ、音声的な面では古典の世界に親しむことができていると言える。しかし、内容的には古文と現代語訳との対応で満足する生徒が多く、古典に表れたものの見方や考え方に関しては、「喜怒哀楽などの人間の感情は昔も今も変わらない」というように表層的な捉え方しかできていない生徒もいれば、「古典は難しくてよく分からない」というような全く理解できていない生徒も散見される。

学習指導要領解説国語編には、「古典に表れたものの見方や考え方は、作品の登場人物や作者の思いと密接に連携しており、登場人物の言動や作者の思いを考えることを通して、作品を貫くものの見方や考え方を知ることもある」と示されている。

また、大村はまは著書の中で、『やっぱり、古典はいいなあ』とため息をつかせること」を古典授業の目標としており、「古人と自分たちとの、時をへだてて通い合うものをとらえさせてみたい。」と述べている。

そこで、「おくのほそ道」の中で、生徒自身が興味・関心をもった場所について、各自が調べやすい方法で調べたりまとめたりしながら、芭蕉のものの見方や考え方に触れ、「古典」とは、現代を生きる私たちとかけ離れたものではなく、時を隔てている古人と現代人をつなぐものであることに気付き、古典に親しみを覚え、そこから、古典を学ぶ意欲へとつなげていきたい。

(3) 言語活動の特性

芭蕉の旅の心に同化するには、読み手側の深い想像力が必要であるが、芭蕉が「おくのほそ道」で旅した場所は、鹿児島県から遠く離れた地であり、生徒に馴染みのある場所とは言えない。訪れたこともなく、さらに、歴史的な知識が少ない生徒にとって、芭蕉が訪れた場所の情景を思い浮かべることは容易ではなく、芭蕉が見聞きしたもの、考えたことや感じたことなどを想像することは難しい。

そこで、生徒それぞれが芭蕉が巡った場所を調べることで、情景を浮かべやすくなり、芭蕉やさらに昔の人々のものの見方や考え方を捉えやすくなるのではないかと考えた。

場所を調べるためには多くの資料が必要であるため、学校図書館司書と連携をとり、鹿児島市立図書館から関連本を借りて、様々な図書に出合わせるようにする。

図書については、字が多く読む量が多いもの、図や写真が多いものなど、書かれている内容等を教師が解説し、生徒が自分に合わせて選択できるようにする。また、本を読みながら、気になった箇所には付箋を貼るようにする。授業中のみならず、家庭での時間や休み時間を利用して本を読んだり、読んだ本の内容を生徒同士で語り合ったりできるように工夫する。

各授業の最後には、振り返りシートを活用し、個々の学習の進捗や定着の状況を把握する。

6 単元の指導計画（全7時間）

時	主となる学習内容	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○ 写真を一枚選ぶ。 ○ 単元の学習目標と学習計画を確認する。 ○ 「おくのほそ道」と芭蕉について、基礎的な事柄を理解する。 ○ 「おくのほそ道」の冒頭部分を音読したり暗唱したりする。	・ 松尾芭蕉が「おくのほそ道」で訪れた場所の写真を10枚見せ、自分が訪れたいと思った写真を1枚選ばせる。 ・ 学習計画表を提示し、本単元の学習の見通しをもたせる。 ・ 作品や作者についての基本的な知識を確認する。 ・ 歴史的仮名遣いに気を付けながら冒頭部分を音読したり暗唱したりさせる。	[知識・技能]① ワークシート ・ 指示されたことができてい るか確認する。 [主体的に学習に取り組む態度]① 音読 ・ 積極的に音読したり暗唱し たりし、教師のところにチ ェックを受けに来たか。

2	○ 現代語訳や脚注を参考にしながら「1」(門出)の内容をつかみ、芭蕉の考えを捉える。	・ 最初から全ての現代語訳や語注を示さず、ヒントを出しながら本文の内容を考えさせる。最後に教科書で全訳を確認する。「旅」に対する芭蕉の考え方や、「旅」への思いも捉えさせる。	[思考・判断・表現]① ワークシート、振り返りシート ・ 芭蕉のものの見方や考え方を正確に捉えているか確認する。
3	○ 「2」(平泉)について歴史的な背景を理解しながら内容を捉え、俳句を鑑賞し、芭蕉や曾良の心情を捉える。	・ 「平泉」について、歴史的な背景を確認し、脚注を参考にしながら本文の内容や芭蕉の思いを読み取らせる。	[思考・判断・表現]① ワークシート、振り返りシート ・ 芭蕉のものの見方や考え方を正確に捉えているか確認する。
4	○ フライヤー作成のための準備をする。	・ フライヤーのモデルを提示して活動の見通しをもたせたり、本の紹介をすることで興味・関心をもたせたりする。	[主体的に学習に取り組む態度]① 観察・振り返りシート ・ 興味や関心を持ち、活動の内容が理解できているかどうか確認をする。
5 本時	○ 「芭蕉生誕380年、『おくのほそ道』紀行335年特別企画芭蕉の足跡をたどるツアー」のフライヤーを作る。	・ 1 で選んだ写真の場所について、紀行文に登場する俳句や句意、季語、訪ねた名所旧跡、歴史的な出来事、そのときの芭蕉が考えたことなどを自分が調べたい方法で調べ、フライヤーとしてまとめさせる。 【非認知能力：探求心】	[知識・技能]② ワークシート・フライヤーの内容 ・ 芭蕉の考えを知り、資料の一節を引用して自分の文章に使っているか確認する。 [思考・判断・表現]② ワークシート・フライヤーの内容 ・ 表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になっているか確認する。 [主体的に学習に取り組む態度]① ワークシート・フライヤーに取り組む態度 ・ 自分が調べやすい方法で積極的に書いているか。
6	○ 前時の続きをし、フライヤーを完成する。	・ 本時で完成させる。フライヤーが完成した生徒は、もう一か所調べさせる。	第5時と同じ
7	○ できあがったフライヤーを紹介し合い、それぞれのフライヤーのよさを伝え合う。 ○ 本単元の振り返りをする。	・ 一人ずつ紹介させる。 ・ 学習を振り返り、古人のものの見方や考え方を捉えることができたかどうか確認する。	[知識・技能]① できあがったフライヤー、振り返りシート ・ 作品に書かれている内容を確認する。

7 単元のゴールの姿

本単元では、教科書に載っている「おくのほそ道」の内容を捉えた後、芭蕉が訪れた場所のフライヤーを書いて、単元の成果物とする。評価は以下の観点三つに基づいて行う。

- (1) 「おくのほそ道」を読むことを通して、古人の考え方を知り、一節を引用して自分の文章に使っている。
- (2) 「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。
- (3) 積極的に作品や資料を読み、学習課題に沿って考えたことを表現しようとしている。

ゴールイメージ(フライヤーに書かれてほしい内容)

【田一枚植て立去る柳かな(栃木県 遊行柳)を選択した場合】

那須町にある「遊行柳」という柳。西行法師が「道の辺に清水流る柳かげしばしとてこそ立ちどまりつれ」(新古今和歌集)と詠んだ有名な柳です。芭蕉はここで尊敬している西行法師のことに思いを馳せていたのだと思います。「おくのほそ道」には、「どうしても訪れたかった場所」と書かれています。「遊行柳」は何代にもわたって植えつがれ、今も芭蕉が訪れたときと同じ景色を見ることができます。

【松島や鶴に身をかれほととぎす 曾良(宮城県 松島)を選択した場合】

「おくのほそ道」の冒頭部分に、「松島の月まづ心にかかりて」とあるように、芭蕉が憧れていた場所です。松島での芭蕉は、感動で胸がいっぱいで、一睡もできず、一句も詠めないまま松島を出発しました。一句詠んだ弟子の曾良をたいしたものだとほめています。

松島は、日本を代表する美しい景色として、京都の天橋立、広島県の宮島とともに日本三景のひとつに数えられています。

【閑かさや岩にしみ入る蟬の声(山形県 立石寺)を選択した場合】

出羽の国(山形県)に入った芭蕉は、知り合いからぜひ「立石寺」というお寺を訪ねるように勧められたので、わざわざ引き返して「立石寺」へ向かいました。日暮れ前、荒々しい岩の山肌に建てられた立石寺に到着すると、お寺のその静けさが心にしみて、芭蕉を代表する名句が誕生しました。芭蕉が、とても静寂な空間に引き込まれて行く感じが感じ取れます。

8 本時の実際

(1) 本時の目標

- ア 「おくのほそ道」を読むことを通して、芭蕉の考え方を知り、一節を引用して自分の文章に使うことができる。 [知識・技能]
- イ 「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。 [思考・判断・表現]
- ウ 積極的に作品や資料を読み、学習課題に沿って考えたことを表現することができる。 [主体的に学習に取り組む態度]

(2) 授業設計の工夫

- ア それぞれの方法、進度で学習に取り組む。【非認知能力：探求心】
- イ ワークシートにより、見通しと振り返りをさせ、思考の広がりや深まりを意識させる。
- ウ 教室の配置を工夫し、協働で学習しやすい環境づくりを行う。
- エ 早く終了した生徒にはさらに他の場所のフライヤー作りに取り掛かせ、進度が遅かったり困っている生徒には教師の助言や友人からの手助けをもとに完成させるようにする。

(3) 学習の展開

過程	主な学習内容及び活動	時間	○指導上の留意点 ◎評価
導入	1 前時の学習を振り返り、単元の目標を確認する。 松尾芭蕉は、訪れた場所でどのようなことを感じたり考えたりしたのだろう。	3 [一斉]	○ 前時を想起させ、単元の目標を確認させる。
	2 本時の学習課題と学習の進め方を確認する。 松尾芭蕉が訪れた場所や紀行文に登場する俳句や句意、季語、訪ねた名所旧跡、歴史的な出来事、そのときの芭蕉が考えたことなどについて調べ、「芭蕉生誕380年、『おくのほそ道』紀行335年特別企画 芭蕉の足跡をたどるツアー」のフライヤーを作ろう。 [学習の進め方] ステップ①～④をもとに活動をする。	5 [一斉]	○ 本時の学習課題を掲示するとともに、フライヤーに入れる内容を挙げさせることによって、学習の見通しをもたせる。 ○ ステップ①～④を掲示する。 ① 本やインターネットから情報を見つけることができる。 ② ①の情報を理解し、ワークシートにまとめることができる。 ③ 芭蕉の気持ちを読み取ることができる。 ④ フライヤーを作成することができる。
展開	3 各自が選んだ写真の場所について、資料を読みながら、フライヤーを書く。	32 [個人]	○ ワークシートをもとに、生徒がどのステップにいるか確認し、指導や助言を行う。 ◎ 「おくのほそ道」を読むことを通して、芭蕉の考え方を知り、一節を引用して自分の文章に使っている。 [知識・技能] ◎ 「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。 [思考・判断・表現] ◎ 積極的に作品や資料を読み、学習課題に沿って考えたことを表現しようとしている。 [主体的に学習に取り組む態度]
	※ 「写真」に関連する俳句と場所 ①しばらくは滝に籠もるや夏の初め ②田一枚植て立去る柳かな ③卯の花をかざしに閑の晴着かな ④松島や鶴に身をかれほととぎす ⑤閑かさや岩にしみ入る蟬の声 ⑥五月雨をあつめて涼し最上川 ⑦荒海や佐渡によこたふ天河 ⑧むざんやな甲の下のきりぎりす ⑨物書きて扇引きさくなごりかな ⑩蛤のふたみにわかれ行く秋ぞ 【栃木県 黒髪山 裏見の滝】 【栃木県 遊行柳】 【福島県 白河の関】（曾良） 【宮城県 松島】（曾良） 【山形県 立石寺】 【山形県 最上川】 【新潟県 出雲崎】 【石川県 小松市】 【福井県 天龍寺】 【岐阜県 大垣】		
終末	4 本時の学習を振り返りシートに記入する。	8 [個人]	○ 松尾芭蕉について分かったことや進捗状況等を記入させ、数名に発表させる。
	5 次時の予告を聞き、学習内容を確認する。	2 [一斉]	○ 次時はフライヤーを完成させることを伝える。